

## 第 25 回日本 SPF 豚研究会 講演要旨

(於 平成 27 年 7 月 6 日 山上会館)

### 「日本 SPF 豚協会年次報告 平成 26 年度 (2014)」

日本 SPF 豚協会

平成 27 年 3 月末現在の SPF 豚認定農場数は 182 農場 (内 GGP・GP 農場 18、子豚育成・肉豚肥育専門農場含む) で、前年と横ばいであった。前年度減少した飼養母豚数は 80,136 頭と再び 8 万頭の大台となり、全国の飼養母豚数 88.5 万頭 (畜産統計、2014 年 2 月現在) に占める認定農場 SPF 豚の割合は 9.1%と前年度より 0.3 ポイント上昇した。

今回も農場形態ごとにその生産成績についてご報告したい。

### 「豚の肺炎・下痢の原因とその好発時期」

日清丸紅飼料(株)総合研究所 検査グループ 矢原 芳博

弊社総合研究所では約 30 年の間、豚の臨床検査に携わってきた。その間、様々な感染症が養豚の生産性を阻害してきた。特に豚流行性下痢 (PED) は中国、米国での大流行の後、日本でも全国的な広がりを見せ、ここ最近の養豚業界での話題は PED 一色と言っても過言ではない。しかし同時に、日本国内の養豚場では、生産ステージごとに PED 以外の様々な疾病も継続的に発生しており、農場内の事故率の主要な部分を占めている。

演者は、弊社臨床検査機関において、日常的に実施している検査結果から得られた疫学データを基に、生産ステージごとにどのような疾病が発生しているのかを考察し、各主要疾病ごとに生産現場における最近の発生の特徴と対策や問題点について整理したい。

### 「生産性を維持しながら PRRS が清浄化された大規模農場事例」

日本農産工業(株)畜産技術センター 櫻井 忠

当該農場は南九州地区にある母豚数 1,500 頭の日本 SPF 豚協会認定の CM 繁殖農場で、肉用子豚生産を主体とし、コンベンショナル農場向けの PS 種豚の生産も行う。この農場では 2008 年 12 月に PRRS の侵入を許し、2009 年 3 月より同病の清浄化に向けて対策を開始した。PRRS 清浄化は生産性を維持しながら、モニタリング検査による母豚群および子豚群の感染状況の把握、農場防疫体制の見直し、純粋母豚導入の一時的中止、AIAO の確立・徹底、水平感染防止の徹底等で行った。その結果、血清を用いた PRRS ウイルスの ELISA および PCR 検査で 6 ヶ月間継続して新たな陽性例が確認されず、当該農場の PRRS は 2014 年 10 月に清浄化されたと判断した。本講演では清浄化に至るまでの経過、対策中に得られた経験、知見および問題点について紹介したい。

### 「SPF 種豚場における豚流行性下痢 (PED) の清浄化について」

(株) シムコ 園田 昭浩

昨年 3 月、5 月、弊社 GP 農場 2 ヶ所で PED が発生し、甚大な被害を出した。発生後、管轄の家畜保健衛生所の指導の下、衛生対策を中心に対応し、数ヶ月で沈静化の承認を頂いた。しかし、SPF 種豚を供給するためには清浄化が必須であったので、沈静後も、生体および環境中からのウイルスの撲滅をめざして、膨大な検査と衛生対策を実施、おとり豚による感染がないことも確認した。また、最後にウイルス遺伝子が検出されてから、半年以上経った今日においても、臨床症状は無く、ウイルスの遺伝子も検出されないことから清浄化が達成できたと断定した。本講演では、2 農場の発生から清浄化に至るまでの経緯と対策、清浄化の確認、および今後の課題について報告したい。

／以上